

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 19 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2016

課題番号：24310190

研究課題名(和文) イラン人によるネットワーク型社会運動の系譜と、その政治化に際しての諸問題の検討

研究課題名(英文) Iranian networking; its history, social and political implications in modern era

研究代表者

山岸 智子 (YAMAGISHI, Tomoko)

明治大学・政治経済学部・教授

研究者番号：50272480

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,700,000円

研究成果の概要(和文)：その地政学的な条件により国際政治の厳しい局面に巻き込まれることを余儀なくされてきたイラン人の間では、ペルシア語を用いる知識人、エスニック集団や軍人らによる国境を越えた人脈、在外イラン人との密な連絡など国境を越えて活発なネットワーキングが見られる。都市化・交通インフラの整備と通信情報技術ICTの発達・経済政策などにより、遊牧民社会の変容、NGOの展開、若者の疎外感と選挙活動、などの新しいネットワーキングが国内で展開し、2013年の大統領選挙で政治的方向転換を可能にした。

研究成果の概要(英文)：(1)Conditions for a wide-participation in the so-called "Green Movement" in Iran 2009 were examined as follows: (a)Geopolitical circumstances caused modern Iran to respond to harsh international politics;(b)Persian-speaking intelligentsia's network beyond borders contributed to the understanding and spread of modernity; (c)Ethnic and vocational ties affect today's economy and military actions, such as Azeris' network and the Revolutionary Guards; (d)Modernization policies of economy, urbanization, progress in traffic and mass media, and others changed the very base of social networking, so to change tribal society, to bring about youths' new types of sociability, to develop NGOs, etc; (e)Development of ICT also contributes to the networking of Iranian migrants living abroad.
(2) The characteristics figured out (above points) are also thought to enable a turnaround in 2013 Presidential election in pursuit of more moderate policies to evade animosity.

研究分野：地域研究

キーワード：イラン ネットワーク グローバル 市民運動 国際関係 近代史 インターネット イスラーム

1. 研究開始当初の背景

本研究は、いわゆる「アラブの春」の先駆けとなったイランの「緑の運動」(2009年)を可能にした諸条件を検証し、イラン近代に新しい角度から光を当てることが求められている、との問題意識で開始された。

2. 研究の目的

叙史的な近代史、国際関係、イデオロギーと政治過程の分析、社会変容、などさまざまなディシプリンでばらばらに扱われてきたイラン近代を、社会の存立基盤にあたる人間相互の社会的働きかけ～ネットワークングというコンテキストにおいて再構築する。

3. 研究の方法

歴史学・人類学・政治学・国際政治などを応用し、現地での聞き取り調査、文献研究などをとりまぜ、学際的なアプローチをとる。ネットワークングという事象が顕著に表れている例を検証し、19世紀からの時間軸と、国境で区切られた領土を超えた空間軸のなかで捉えたうえで、諸事象の意味を考察する。

4. 研究成果

(1) 大統領選挙の開票の不正の訴えが広範な社会運動に展開した2009年の「緑の運動」を理解するための次のようなイラン近代の特質が確認された:

(a) イラン近代はその地政学的な条件により、国際政治の厳しい局面に巻き込まれることを余儀なくされてきた。

(b) 19世紀から、ペルシア語を用いた情報交換、知識人の移動に特筆すべき質と量が認められる。

(c) アゼルバイジャン系のエスニックなネットワーク、イラン・イラク戦争期の情報将校らによる国境を越えた人脈が、現代の経済や軍事面に影響を与えている。

(d) 都市化・交通インフラの整備と通信情報技術 ICT の発達・経済政策などにより、遊牧民社会の変容、NGO の展開、若者の疎外感と新しい結びつき、などネットワークングの新しい側面が観察される。

(e) イラン・イスラーム革命後、国外で暮らすイラン人は400万人ともいわれるが、ICTの発展が彼ら/彼女らのネットワーク編成に役立っている。

(2) さらに本研究の期間中には、上記(a)～(e)が新しい政治=社会的帰結をもたらす様相を観察することができた。2013年の大統領選挙は粛々と行われ、中道派のロウハーニー師が当選した。ロウハーニー新大統領は、公約のとおり核開発交渉によって、経済制裁解除をもたらした。ダーイシュ(IS) 封じ込めの一角にイランも入るといふ国際政治のダイナミクスの変化と、選挙キャンペーンに参加し投票によって意思を示すという民主的な政治手法の定着という内外の要因、それを支えるネットワークングが、戦争回避と経済制裁解除の方向に舵を切ることを可能にしたと評価できる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計16件)

山岸智子、カオスと仮想敵—「アラブの春」から2年半、公明グラフ、査読なし、2013年秋号、2013、28-30

松永泰行、第11期イラン大統領選挙を巡る国内政治過程—ロウハーニー当選の背景とその制度的意味合い、中東研究、査読なし、518、2013、3-14

吉村慎太郎、ハサン・ロウハーニーと2013年イラン大統領選挙、アジア社会文化研究、査読なし、15、2014、1-20

吉村慎太郎、イラン「核開発」疑惑の背景と展開—冷徹な現実の諸相を見据えて、高橋伸夫編アジアの「核」と私たち—フクシマを見つめながら、査読なし、2014、201-229

アレズ・ファクレジャハニ、一家三代の女性から見たイラン・イスラーム共和国(上)、世界、査読なし、850、2013、268-277

アレズ・ファクレジャハニ、一家三代の女性から見たイラン・イスラーム共和国(中)、世界、査読なし、852、2014、268-278

山岸智子、日本のイラン研究と日本中東学会、日本中東学会年報、査読有、30-2、2014、151-156

細谷幸子、他、家族保護法(1967年6月15日成立)、イスラーム地域研究ジャーナル、査読なし、6、2014、12

細谷幸子、他、イラン家族保護法(1975年2月4日成立)、イスラーム地域研究ジャーナル、査読なし、7、2014、58-64

アレズ・ファクレジャハニ、北にいる熊との難しい付き合い方—ロシアとイラン、現代思想、査読なし、2014年7月号、2014、201-213

山岸智子、敵の敵の敵は...自分?!、ふらんす、査読なし、特別編集、2015、100-102

黒田卓、ムスリムたちの近代との出会い、学びの杜、査読なし、72、2015、3-4

松永泰行、あの「聖なる防衛」をもう一度か?—イラン・イスラーム革命防衛隊のイラクの対「イスラーム国」戦争支援の背景、中東研究、査読なし、524、2015、64-75

山岸智子、大悪魔のゆくえ—社会不安と敵愾心の醸成、長沢栄治・栗田禎子編中東と日本の針路「安保法制」がもたらすもの、査読なし、2016、50-61

MATSUNAGA Yasuyuki、(Theological and Institutional Soul-searching Aside) Will Reproblematizing Iran's Islamic State a la Religious Secularity Require Another Islamic State? Journal of Religious and Political Practice、査読有、vol.3 no.1-2、2017、84-87

SUZUKI Yuko, Des Couples iraniens en migration: trajectoires d'integration en Suede、査読有、1312、2016、71-80

〔学会発表〕(計15件)

山岸智子、日本のイラン研究と日本中東学会、日本中東学会第30回年次大会、2014年5月10日、東京国際大学(東京)

HOSOYA Sachiko, The Roles of NGOs for Creating a Network among Disabled People in Iran、Tenth Biennial Iranian Studies Conference、2014年8月9日、Montreal (Canada)

SUZUKI Yuko, Tribal Women's New Relationship with the Cell phones: Social Changes in Kohgiluyeh va Boir-ahmad Province、Tenth Biennial Iranian Studies Conference、2014年8月9日、Montreal (Canada)

Gi Yeon Koo, Love: The Prohibited but Thrilling Emotion among the Iranian Youth、Tenth Biennial Iranian Studies Conference、2014年8月9日、Montreal (Canada)

MATSUNAGA Yasuyuki, Theorizing Cross-National Conflict Non-Diffusion: Why Sectarian Violence Doesn't Spread Beyond National Borders in the Greater Middle East、The Fourth World Congress for Middle Eastern Studies、2014年8月19日、Ankara (Turkey)

YOSHIMURA Shintaro, Iran and Japan Relations: New Opportunities after the Nuclear Agreement、IPIS-SPF Joint Seminar, Iran and International Community After the Nuclear Agreement、2015年10月31日、Tehran (Iran)

MATSUNAGA Yasuyuki, Will Historicizing Desecularization Help Iranian Post-revivalist?、Middle East Studies Association、2014年11月22日、Washington D.C. (U.S.A)

MATSUNAGA Yasuyuki, Khomeinism: the Non-Obvious Constraints on Political Reform in Iran、Cultures of Freedom and Contending Visions of Justice and Governance in the Muslim World Symposium、2015年4月9日、Sydney (Australia)

MATSUNAGA Yasuyuki, Contention over Religious Violence in Iran、第5回人間の安全保障学会、2015年12月13日、国際基督教大学(東京)

SUZUKI Yuko, Iranian Migrants under Two Different Immigration Policies: The Cases in Sweden and France、Association for the Anthropology of Policy IUAES、2016年5月5日、

Dubrovnik (Croatia)

HOSOYA Sachiko, Choosing a unique life as a Thalassemia patient: Biological citizenship and marriage partner preference of people with a genetic illness in Iran、Conference of Commission on the Middle East IUAES、2016年8月7日、Krakow (Poland)

YAMAGISHI Tomoko, Beyond the Dialectics of the Globalization Theories、Conference of Commission on the Middle East IUAES、2016年8月9日、Krakow (Poland)

MATSUNAGA Yasuyuki, Religion, Violence, and the Politics of Sanctified Punishment: A Case of Iran's Islamic State、111th Annual Meeting of the American Sociological Association、2016年8月21日、Seattle (U.S.A)

HOSOYA Sachiko, Ethical Discussion on Iran's National Prevention Program for Genetic Diseases: From the Experience of People with Thalassemia、American Anthropological Association、2016年11月16日、Minneapolis (U.S.A)
黒田卓、イラン系知識人の近代性認識と立憲革命、東洋文庫現代イスラーム研究班第4回構造変動セミナー、2017年1月7日、東洋文庫(東京)

〔図書〕(計3件)

吉村慎太郎 他編、新水社、現代アジアの女性たち—グローバル化社会を生きる、2014、370

吉村慎太郎 他編、慶應義塾大学出版会、アジアの「核」と私たち—フクシマを見つめながら、2014、356

松永泰行 他、岩波書店、「イスラーム国」の脅威とイラク、2014、283

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山岸 智子 (YAMAGISHI, Tomoko)
明治大学・政治経済学部・教授
研究者番号: 50272480

(2) 研究分担者

吉村 慎太郎 (YOSHIMURA, Shintaro)
広島大学・大学院総合科学研究科・教授
研究者番号: 40220735

黒田 卓 (KURODA, Takashi)
東北大学・大学院国際文化研究科・教授
研究者番号：70195593

松永 泰行 (MATSUNGA, Yasuyuki)
東京外国語大学・総合国際学研究院・教授
研究者番号：20328678

細谷 幸子 (HOSOYA, Sachiko)
東方大学・地域看護学・助教
研究者番号：60516152

(3)連携研究者

桜井 啓子 (SAKURAI, Keiko)
早稲田大学・国際教養学術院・教授
研究者番号：70235216

(4)研究協力者

鈴木 優子 (SUZUKI, Yuko)

アレズ・ファクレジャハニ (Arezoo
FAKHREJAHANI)

具紀元(KOO, Gi Yeon)